

施策分析シート

No1

施策名	資源循環型清掃事業の推進	施策No	15-03	部課名	環境清掃部清掃リサイクル課	課長名	正木良一	内線	448
関連部課名	環境清掃部荒川清掃事務所								
行政評価事業体系	分野	防災・まちづくり・環境							
	政策	地球環境にやさしいまちづくり							

目的	・大量生産・大量消費・大量廃棄の一方通行のシステムを見直し、区民、事業者、行政が連携し、それぞれの役割に応じて行動することにより、循環型社会を実現する。 ・ごみの減量と資源化・再利用というリサイクルの視点に立った循環型清掃事業を区民、事業者、行政が一体となって展開する。 ・「京都議定書の発効にあたっての共同宣言」の方針に基づき、ごみの減量、製品の再利用、資源回収を積極的に図り、環境に配慮した取り組みを促進し、環境と経済が両立した循環型社会の実現を目指す。						
指標	施策の成果とする指標名		指標の推移				指標に関する説明
			平成16年度	平成17年度	(見込み) 18年度	目標値 (28年度)	
	①	ごみ排出量：トン（年）	62,138	61,374	61,067	30,000	5割減が目標 (18→28年度)
	②	資源回収量：トン（年）	11,273	11,392	11,426	17,000	5割増が目標 (18→28年度)
	③	集団回収モデル事業参加町会数	37	61	107	117	19年度中に全町会で実施
	④	品目拡大参加町会数	——	——	8	117	19年度に半数、20年度から全町会実施
	⑤	リサイクル率：%	15.4	15.7	15.8	36.2	資源量/(ごみ量＋資源量) ×100
現状と課題	・ごみ排出量については、家庭ごみの4割を占める生ごみの減量化、再生品の使用、マイバッグの利用（レジ袋の削減）等を促進するとともに、家庭ごみの有料化等も検討し、目標値達成のための施策を総合的に推進する。 ・資源回収量については、集団回収の品目拡大（ペットボトル、白色トレイ等）の実施や、分別指導の充実を行い、現在、ごみに含まれる資源の回収の徹底を図ることにより、目標値達成を目指す。 ・20年度からのサーマルリサイクルの実施に合わせ、19年度中に全町会でペットボトル回収を行う体制づくりを実現する。						
今後の方向性	・平成20年度から、サーマルリサイクルの実施が予定されている。実施にあたっては、その前提となる再生利用施策の拡充が必須であり、単一素材のペットボトルについては、着実に収集体制を拡充していく必要がある。 ・また、その他のプラスチックについても、再生利用のあり方について方向性を固める必要がある。 ・荒川区の資源回収は集団回収による実施を基本としており、今後も住民が集団回収を円滑にできるよう、支援体制の充実に努めていく必要がある。						

施策の優先度	優先度についての説明・意見等
B	資源循環型社会を実現する。

施策分析シート

No2

施策を構成する事務事業の優先度					
事務事業名	事務事業No	決算額（千円）		施策推進のための優先度	優先度についての説明・意見等
		平成16年度	平成17年度		
一般廃棄物処理業等許可事務費	05-02-01	—	—	B	業者の資質向上を図り、生活環境保全を図る必要がある。
広報普及費	05-02-04	2,979	2,726	B	区民や事業者の意識改革、実践がごみ減量に不可欠である。
リサイクル実践活動事業費	05-02-07	0	0	C	実行委員会による自主的な開催を促す方向で実施していく。
集団回収支援事業費	05-02-08	104,079	122,876	A	良質な資源の回収、意識啓発等の効果があり、優先度は高い。
空き缶圧縮機整備事業費	05-02-09	2,826	2,645	C	現状の体制で実施していく。
ストックヤード整備事業費	05-02-10	325	141	C	現状の体制で実施していく。
資源化・再商品化費（びん・缶）	05-02-11	33,237	26,398	B	回収資源を再生資源として流通させるためには、選別等の資源化が必要である。
資源化・再商品化費（ペットボトル）	05-02-12	11,390	11,832	B	回収資源を再生資源として流通させるためには、選別等の資源化が必要である。
リサイクルセンター管理運営費	05-02-13	3,655	3,376	B	循環型社会を目指す区の拠点として活用していく必要がある。
エコセンター設置準備費	05-02-14	—	—	A	リサイクル施策と環境教育等の施策を実施する拠点を作る極めて重要な事業である。
エコストリート事業	05-02-15	11	10	D	乾電池、廃食油の回収事業だが、参加者の向上が見込めず、見直しが必要である。
ペットボトル回収モデル事業費	05-02-16	3,221	5,188	B	集合住宅の増加に合わせ、回収量の向上を目指していく。
トレイ回収事業費	05-02-17	1,696	996	C	集団回収モデル事業等による回収に重点をおいていく。
資源回収事業費	05-03-18	125,172	120,729	B	集合住宅の増加に合わせ、回収量の向上を目指していく。
ペットボトル回収事業費	05-03-19	19,397	19,301	C	集団回収モデル事業等による回収に重点をおいていく。
合 計		203,909	193,342		